

第 67 回 渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）資料

（平成 28 年 6 月 18 日）

5 月 21 日の定例会では、恒例の、オオセッカの繁殖調査（さえずるみをカウント）をしました。さえずるみの確認数は 20 羽でした。詳細は配布した調査報告をご覧ください。また、オオセッカを取り上げた過去の資料や、アクリ主催の講座のオオセッカの関する項も読み返していただければ、オオセッカの大意がわかると思います。観察者やカメラマンの、オオセッカに関する理解も深まり、繁殖地に立ち入る人はなくなりましたが、一部土手下までヨシが倒されている箇所がありました。みが 20 羽ですから、総数はわずかに 40 羽、繁殖域も半減しています。小さくて地味、さえずりも決して素晴らしいものとはいえませんが、草いきれのする草原にたつて、囀り飛翔を観察するのも乙なものです。オオセッカの貴重さを喧伝し、地域で保護策を講じるよう、お願いしたいと思います。世界で 2,500 羽、日本で 1,000 羽、しかも海に近い湿地で繁殖するとされているオオセッカのここでの生息（繁殖）は、ラムサール条約登録湿地であることと相まって、対応次第で、地域の知名度を一層高めることになるのではないのでしょうか？

鳥便り ここ数年来、複数のトラフズクの営巣が、手軽の観察できるようになりました。

昭和 60 年（1985 年）発行の古い鳥類図鑑を見ると、トラフズクの生態は「山すそや里近くのやぶ、森林中に生息して・・・」とあり、分布は「北海道、本州北部で繁殖し、・・・」とあります。渡良瀬遊水地での繁殖は平成 2 年（1990 年）に確認されています。その後、トラフズクの繁殖の南限は「渡良瀬遊水地」と言われてきました。ここでの繁殖林は、地面が湿地の針葉樹林であったり、ヤナギの河畔林であったり、深いヨシ原の中の樹林であったりで、人の入らないヤナギの林に踏み込んだら、赤味がかった黄色い目をしたフクロウのヒナがいたなどという話もありました。そのころ、人の気の無い林で缶ビールを飲んで寝転んでいたら、「キチキチキチ・・・」と虫の鳴くような小さな声にふと頭上を見上げると、2 羽の巣立ったばかりのヒナが、灰白色の羽毛に包まれ、真ん丸い黄色い目をして私を見下ろしていたなんてこともありました。その頃は、人が立ち入れない、または立ち入らないような樹林でカラスの古巣を利用して、ひっそりと営巣していたのです。なお現在の繁殖南限は中部地方とされています。

トラフズクが日常的に人の出入りがあり、その密度の低い植栽に営巣を始めたことの確認は、平成 20 年（2008 年）5 月 20 日に、渡良瀬遊水地研究所の白井所長さんが、ゴルフ場で巣立ちヒナを写真に収めたのが最初ですが、巣の所在の確認はされていません。その後の平成 25 年 7 月 5 日に、遊鳥会の真瀬さんが北川辺（加須市）の運動公園で 5 羽の家族群を写真に撮っていますが、その時も巣の確認はされていませんでした。しかし翌年には同所で巣の確認がされています。トラフズクが日常的に人の出入りがある場所での営巣の傾向はその後も続き、今季も同じような環境での新たな営巣が確認されています。

この傾向の背景には採餌環境やカラスの空き巣を架けた営巣木の存在等が関係しているように思います。

トラフズクの営巣を、散策がてらに観察でき、来遊者が気軽に野鳥に親しめる貴重な存在です。この後もトラフズクが身近に繁殖できる環境を維持するための気配りが必要です。

なお、北川辺の運動公園の管理人に会ってきました。トラフの巣を壊したという事実は無いとのことで、目を閉じているトラフに石や小枝を投げるカメラマンを注意したところ口論となり、市役所に通報され、市役所から厳重に注意されたそうです。トラブルとなったそういう方々の流布した嫌がらせのデマのようです。今後のこともお願いしてきました。

渡良瀬遊水地周辺に、冬ねぐらが 2ヶ所あります。探せばもっとあるかもしれません。

（大木さんの説によると、宮崎駿の「となりのトトロ」のトトロはトラフズク、だそうです。）

*「ラムサール条約登録湿地 渡良瀬遊水地と野鳥」と題した写真展を、アクリと共催で、7 月 1 日～8 日に開催します。本日の定例会終了後に、打ち合わせをします。写真担当者、企画員、出展者、ご協力を頂ける方は、午後 1 時に活動センターにお集まりください。25 日・26 日にパネル作製、30 日に展示の予定です。

***9 月定例会は「ツバメのねぐら入り」を観察します。ツバメの都合で、定例会を第 2 土曜日の 10 日に変更します。**

（一色）